



新政会
安 樂 良 幸

市長2期目最終年における市政運営について

質問 平成30年度は、前田市政2期目の集大成の年であり、ここに至るまで数々の成果をあげているが、財政的な制約などにより、実現できていない政策があると認識している。市長の現状認識と今後の方向性について伺う。

答弁 市民の皆さんからさまざまな要望がある中、やりたいことはまだまだあります。家庭の負担を軽くして子育てしやすい環境づくりや、学力向上の観点から少人数学級を5・6年生まで拡大するとともに、高齢者の皆さんが生き生きと元気で暮らせる施策を充実していきたいとも思っています。このように、やりたいことはたくさんありますが、将来にわたって持続可能な財政運営を確立していくためには、今は我慢の時期と想っています。残された1年は滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

を着実に実行するとともに、やるべきところは、タイムリングを見計らいながらしっかりと手を打っていきたいと思っています。

質問 滝川駐屯地の増員(約350人)への市の対応について伺う。

答弁 滝川駐屯地には、地域の安全・安心と、地域経済や社会活動などまちづくりに大きく寄与していただいております。関係団体と協力しながら維持・充実活動を支援してきました。今回の増員はこうした取り組みを通じて築かれてきた相互の信頼関係が評価され、実を結んだものと受け止めています。市としては、転入手続の臨時窓口開設を検討するほか、住宅情報の提供や訓練環境の充実について、できる限りの協力をしていきます。

農業を起点とした元気な地域産品づくりについて

質問 農商工連携事業において、現状での企業参入の見通しと、農業者と民間企業のマッチングをどのような手法で進めるのか伺う。

答弁 現在、ぶどう栽培やワイン醸造事業を検討している企業や果樹栽培の法人化に向け協議を進め

ている案件もあり、農商工連携による成果が結びつつあります。今後も、これまで培ったネットワークの活用や、地道な企業訪問などを行い幅広く情報収集し、地域産品の活性化が図れるよう進めていきたいと考えています。

集客・交流事業の推進について

質問 平成30年度スカイパークにおいてアジア初となる2018電動模型航空機世界選手権in滝川が開催されるが、市として具体的にどのように関わるのか伺う。

答弁 市としては、スカイスポーツ担当職員を事務局員として配置するほか、助成金獲得に向けての支援、外国人対応として国際交流員の配置を計画するなど、観光客を受け入れる体制づくりと、引き続き行われる北海道スカイスポーツフェアと協調して広報活動を展開して外客誘致に取り組みます。

コンパクトで機能的な都市の形成について

質問 公共施設マネジメント計画における複合化・集約化や官民連携の取り組みについて考えを伺う。

答弁 施設の複合化・集約化については、平成30年度に農村環境改善センターへの江部乙地区コミュニティセンターの機能集約に向け地域の皆さんとの議論を進めます。官民連携の取り組みについては、滝川市社会福祉事業団を設置主体とした二の坂保育所の建て替えを計画しており、30年度は、建設予定地の旧サイクリングターミナルの解体を行います。また、31年度以降についても、市民の皆さんの意見を伺いながら、財政状況も踏まえ、官民連携により複合化・集約化を進めていきます。

学校教育について

質問 家庭学習の習慣化には、家族の理解と協力が不可欠だと考えられているが、家族との連携を密接に進めていく方策について伺う。

答弁 本市では、家庭学習の手引と家庭学習記録シートを配布し、参観日の際の懇談会などを通じて保護者に周知しています。また、家庭訪問などで保護者に説明し協力をお願いしており、こうした取り組みを発展・充実させ、家庭学習の習慣化の確立を推進していきます。